

旭

印刷を支え加工を活かす

物流 小西一男

入社5年目を迎える小西さん。「50代の私を拾ってくれた会社に恩返ししたい」という熱い想いを胸に、日々リフト作業に励んでいます。同じ現場で活躍する年下の先輩からも、学ぶことがたくさんあるのだそうです。



——どのような経緯で入社に至ったのですか。

前職では、印刷会社などに紙を販売する会社に、35年間勤めていました。廃業というかたちだったこともあり、その会社の取引銀行が就職先を数社紹介してくださり、旭紙工にお世話になることが決まりました。

面接で快く「来てください」とお話しいただき、私も「お願いします」と即答。しかし、入社前の社内見学の際に、前社とのあまりの違いを目の当たりにした私は、急に尻込みしてしまったのです。4階建ての社屋、見たこともない機械、緻密な業務フロー。「15名規模の小さな会社で長年働いてきた自分が、100人以上で回すような職場でやっていけるわけがない」とネガティブ思考に陥り、お断りの電話をしました。すると管理本部副部長の田淵さんは、「それなら1日仕事を体験してみてください」と打診してください。現場に入ってみることに。前職と同じく、リフトを使って品物を積み込む作業をし、「これならなんとかできそうだ」と自信が湧き、入社に至りました。あの一言がなければ

今の私はありません。田淵さんには今でも感謝しています。

——中途入社である小西さんだからこそ感じる旭紙工の魅力を教えてください。

仕事への情熱や責任感といったマインド面、そして業務上のルール遵守などの体制面、どちらも前いた会社よりレベルが高いと感じます。入社してみても、いかに自分が長い間、緊張感や秩序のない環境で仕事をしてきたのかを思い知らされました。

また、会社と従業員のフェアな関係にも驚きました。社長が社員の意見にしっかりと耳を傾け、できる限り要望に応えようとする姿勢があります。入社後に私が体調を崩して長期お休みしたときも、皆さん「仕事



のことは考えなくていいから、まずは病気を治して」と気遣ってください。入社して本当に良かったと思っています。

——どのような場面でやりがいを感じますか。

53歳で拾っていただけたことにも感謝しているので、恩返しのもりで日々業務に取り組んでいます。自己満足かもしれないですが、自分がイメージしたとおりに品物の保管ができたときは気持ちが高く、悦びに浸っています。

——では、これまで苦労した経験はありますか。

リフトの操作には自信があるので、それゆえに運転が荒くなり、シートシャッターを破損させしまったことがあります。私たちと同じ業務を担当しつつメンバーの指導にもあたる峯さんや仲尾さんには、日頃から多くのことを学ばせてもらっています。お二人ともリフト操作スキルが高いうえ、品物の取り扱いも丁

寧です。年上に気を使いながら的確なアドバイスをしてくださる、ありがたい存在です。

——仕事で大切にしているモットーを教えてください。

以前から徹底しているのは、仕事を投げ出さないことです。性格的にも途中で止めるのが好きではないので、任されたことは翌日に持ち越さず、その日のうちに終わらせます。

——仕事とプライベートの両立で意識していることはありますか。

休みの日は、いっさい仕事のことには考えません。掃除や買い物、庭の植木の手入れなど、普段できないことをしています。病気をして以来お酒は飲まなくなりましたが、映画など観るのもリフレッシュになります。

——今後の目標をお聞かせください。

「この品物はどこにありますか?」「あの品物は入ってきましたか?」



企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ◆ ※創業：1963年
- ◆ 年商：17億円
- ◆ 従業員数：200人

部署紹介

Department Introduction

6以上



4年の軌跡

瓜破工場

中綴じ部門編

4年前に掲載した部署紹介の第2弾をお届けします!今回改めて紹介するのは、2019年に新工場としてスタートした瓜破工場の中綴じ部門。他の部署と同様、こちらも新型コロナウイルスの蔓延により、4年間でさまざまな影響を受けてきました。ようやく事態が収束してきた今、これまでの軌跡をご覧ください。

所属人数

昼勤務

社員7名
技能実習生4名
アルバイト4名

夜勤務

社員3名
技能実習生5名
アルバイト5名



中綴じ部門 課長
たなか よしお
田中 賢彦さん

2019年からの変化

2019年

大勢のスタッフとともに
瓜破工場がスタート!

この頃のスタッフは40名ほど。瓜破工場が動き出したばかりで非常に忙しく、休みを取るのも難しい時期でした。

2021年

社内感染により人手不足のピンチに

この頃から、技能実習生の受け入れを少しずつ再開していきました。元からいた実習生にも引き続き、業務をお願いすることに。新型コロナウイルスにより一時期は人手不足の危機を迎えましたが、そのあとは仕事量も少しずつ回復し、日常が戻ってきたように感じたことを覚えています。



2020年

コロナ禍で仕事が減り、
環境整備に注力

新型コロナウイルスが発生し、急に仕事量が少なくなった時期です。このときは機械一つひとつに対してメンテナンスや修理を行う、環境整備に力を入れていました。この先どうなっていくのだろうかという不安の中、体調の悪い人には休んでいただき、出社した人で整備を行う日々です。このときの経験がもとなり、みんなの中に機械を大事に使うという意識が多少は芽生えたのではないかと考えています。

2022年

今後に向けて
社員のスキル強化を徹底

仕事量は、ほぼ回復。引き続き機械のメンテナンスには力を入れていましたが、こちらに関しては現時点でもまだ練度が足りていないと思っています。あとは社員の教育に注力しました。セット作業ができる人間を増やすことが目的です。実際に作業をしながら覚えてもらい、多少ではありますが仕事の効率化が進みました。しかし、ここはまだ経験が足りていません。今後の課題です。

★メンバーをピックアップ

昼勤務

なかにし まさと

中西 正人さん

常に先を見据え、
後輩への指導も行うベテラン

ベテランの経験を活かして、仕事を先のことまできちんと考えてくれるところが非常に優秀。間違っていることがあれば、しっかり指摘してくれます。面倒見もよく、後輩への指導も熱心です。

夜勤務

よねむら

米村 ゆうきさん

安心して夜間の現場を
任せられる中堅のエース

仕事の流れや進捗を常に気にかけており、なにか問題がありそうな場合はすぐに教えてくれる心強い存在。夜勤の様子は、私は直接見られないのですが、米村さんに任せていれば安心できます。

印象に残っている出来事

社員一人ひとりの頑張りで危機を回避!

やはりコロナでしょうか。特に2021年は社内でも感染があり、3~4名の幹部が欠員。私も課長になって間もない頃だったのですが、あのときは社員みんなが非常に頑張ってくれて感動しました。欠員した人の業務をフォローしてくれたおかげで、作業の遅れや現場の混乱が少規模で済んだのだと思います。

今後の目標

次につなげるために業務のミスなくしたい

クレームやミスをなくしていくことです。そのために必要なのは、ミスを繰り返さないよう改善を重ねていくこと。1つの間違いで作業の段取りが遅れてしまうこともありますし、1日の生産量やスケジュールにも影響します。そうなってしまうと、お客様の信頼を失い、次の仕事にはつながりません。今後も全員で意識を共有し、常に改善を続けていきたいと思っています。